



2018年1月発行 No. 112
 発行者 田森茂基 編集者 西島啓喜
 発行所 〒070-0058 旭川市8条西1丁目1-11
 旭川バプテスト教会内
<http://hokkaidobap.jimdo.com> pw:jbc1947

巻頭言

「福音を産み出す教会～宗教改革は続く～」

北海道バプテスト連合 書記 西島啓喜（帯広教会）

一人の女が身に太陽をまとい、月を足の下にし、頭には十二の星の冠をかぶっていた。女は身ごもっていたが、子を産む痛みと苦しみのため叫んでいた。また、もう一つのしるしが天に現れた。見よ、火のように赤い大きな竜である。これには七つの頭と十本の角があって、その頭に七つの冠をかぶっていた。・・・竜は子を産もうとしている女の前に立ちはだかり、産んだら、その子を食べてしまおうとしていた。」（ヨハネの黙示録 12：1-4）

ヨハネは「女と竜」のしるしを見せられます。女は全宇宙の光（神の栄光）に満ち、今まさに産みの苦しみの中にあります。それに対して竜（悪魔、サタン）は、生まれる子供を食べてしまおうと女の前に立ちはだかります。この女は「新しいイスラエル」＝「キリストの教会」ととることができます。「母なる教会」の祈りによって信仰の子供（福音）が生み出され育てられていきます。教会が福音を伝える時、「産みの苦しみ」を味わい、時には大きな困難や迫害が起こってくる、ということだろうと思います。ヨハネの時代、ローマ帝国の大迫害が起こっていました。今はそうしたあからさまな迫害は起こっていません。しかし教会が子供（福音）を産み出す働きが巧妙な形で阻害されているのではないかと思います。最近、管内の教会の一つが閉鎖されたと聞きました。多くの教会もいろいろな困難を抱えています。一見平穏に見える日本の中で、真綿で首を絞めるような形で教会を窒息させようとする力が働いているかのようです。

教会というのは外部からの迫害に対してわりあい強いと言

われます。殉教者を出し、様々な問題を抱えながらも教会の中で生き生きとした信仰の証しとなされ、信仰が鍛錬されていきました。しかし教会が本当にだめになるのはむしろ内部からの問題による、と言われます。教会が単なる制度や習慣に陥る、礼拝がいかげんになる、祈りや賛美に命がなくなる、聖書の言葉がまじめに受けとめられない、馴れあいの人間関係で教会が情性に流される、そうした時、教会は内部から崩れると言われます。

2017年は、プロテスタント教会にとって記念すべき「ルターの宗教改革500年」の年でした。1517年10月31日、ルターが「95カ条の提言」を張り出したのが宗教改革の始まりとされています。宗教改革とは一言でいうと聖書を読む運動だったと言われています。ルターの訳した聖書はあつという間に売れました。聖書のみ言葉に飢えていたということだと思います。教皇の権威を否定したルターがその撤回を迫られたとき、「私は、ここに立つ。」と言って拒否しました。プロテスタントとは一人ひとりが聖書に聞き、教皇や司祭を通さず神の前に立つ祭司なのだと言われます。また「本当のプロテスタントは自らにプロテストし、自らを改革するものでなければならない。」とも言われます。プロテスタントとはそんな面倒くさい教派です。その中でもバプテストは特に面倒くさい教派かも知れません。でも面倒くさい、と思うところに、竜＝サタンの巧妙な罠があるのかもしれませんが。2018年も、「産みの苦しみ」を味わいながらも、「聖書に立ち」淡淡と福音を産み出す働きに仕えて行きたいと思います。

「礼拝音楽研修会イン旭川」のご案内

音楽委員 齊藤聖彦（帯広教会）

来る2月3日（土）、旭川で連盟・教会音楽室主催による「礼拝音楽研修会」が開催されます。ぜひ連合諸教会からもご参加いただき、知識の向上と、諸活動へのヒントを持ち帰っていただければと願っております。参加料は無料（昼食実費）で、遠方の方には、交通費の補助も検討中です。

目的：それぞれの教会のニーズに沿ったプログラム、実技というよりは“讚美する”ことについての信徒対象のレクチャーです。

講師：教会音楽室・室長 江原美歌子氏

内容：賛美の定義、賛美歌の定義、新生讚美歌の歴史、礼拝参与と礼拝奉仕、その喜び、分かち合い、これからの賛美（新しい賛美歌紹介）

日時：2月3日（土）10：00～13：30（14：00）

場所：旭川バプテスト教会

※参加ご希望の方は教会音楽室までご連絡ください。
 （048-883-1091 またはメール ehara@bapren.jp）

「2018年 連合信徒大会」第1報！！

信徒大会の日程と場所が決定しました！しばし日常から離れ、ゆっくりと連合諸教会の皆と共に出会いと交わりを喜び、楽しみたいと願っています。こどもから大人まで、皆で日高に集まり、神を賛美しましょう。詳細は決まり次第お伝えいたします。ぜひ今からご予約ください♪（連合役員会）

記

日時：8月12日（日）19時～14日（火）12時

場所：日高青少年自然の家

定員：140名

●連合ニュースによせて 小樽バプテスト教会H姉の証

主のみ名を賛美致します。

小樽教会では去る10月9日(月・祝)エイカース愛牧師の就任式感謝礼拝が行われました。日本バプテスト連盟常務理事、吉高叶牧師より「教会の元気」(テサロニケI 1章2節~4節)と題してメッセージを頂きました。連盟理事の浦瀬先生、北海道連合会長の田森牧師、小樽市内牧師会幹事の北国先生による祝辞、北海道連合聖歌隊による賛美の奉仕、全国より163名の方々の出席、出席できない方々からのたくさんのお



祝いメッセージとお祈り、地域の方々の温かい配慮もあり、とても素晴らしい祝福に満ちた感謝礼拝でした。

私たち小樽教会は小さな群です。この様な大きな祝会になる事が信じられず、準備の段階で札幌教会の石橋牧師が就任式における心の研修を行って下さり、神さまはその不安をすべて取り去り、感謝あふれる恵みの時としてくださいました。皆様の温かいお祈りとご協力により支えられた事を心より深く感謝致します。何よりも神さまがすべての中心に居て下さり、祝福して下さったことを確信し感謝でした。

12月10日の礼拝では、体調が思わしくなく延期になっていた姉妹の、心待ちにしていたバプテストマツが喜びのうちに執り行われました。小樽教会の63年間の小さな祈りの積み重ねが確実に神さまに届けられている事を実感しています。

世界を視点に活躍されているエイカース愛牧師のもと、信仰、希望、愛の美しい言葉の裏側には厳しい忍耐の働きが伴うことを覚悟し、祈りと喜びと感謝をもって歩んでいきたいと思ひます。

●「道南ブロック牧師・ 牧師連れ合いの会」の報告 函館教会 本多啓示

道南ブロック牧師・牧師連れ合いの会は、2014年に発足。開催は春・秋の年2回を旨とし、会場は状況に合わせ各教会の協力を頂きながら持ち回りで行っています。

今年は8月に室蘭教会、12月に函館キリスト教会で開催されました。室蘭では、合同近況報告と課題の分かち合い、お連れ合いの時、BBQパーティー等を実施。函館では、牧師たちが、2017年度クリスマスに各教会で行ったメッセージを持参し、説教演習を実施。お連れ合いは、お連れ合いの時を持ちました。また今年は日程の関係により函館教会の祈禱会にも合流。祈禱会前の除雪後、参加した教会メンバーとの祈りと交わりの恵みに与りました。尚、合同の時間には、其々の近況の分かち合いと共に、苫小牧教会の新会堂建築について紹介され、次年度の会場候補として、夏期は函館美原教会での開催を。そして冬期は苫小牧教会での協力伝道をテーマとした4教会の牧師/連れ合

い/家族による伝道プログラムの奉仕についてのヴィジョンが共有されました。

こうして、今年も派遣礼拝を経て、新たな思いと共に、それぞれの教会へと遣されて行きました。今後も、この会を通し主にある交わりと協力の絆を深め、更に連合各ブロック諸教会との連帯活性化を祈り取り組んでいきたいと思ひます。連合諸教会の新年度に向けたご準備と、皆様の上に主の祝福と平安がありますように。感謝をこめて。



【クリスマスの喜びの中で。ページェント人形、クリスマスキャンドルの灯りと共に。】

●伴走ひろば in 東北に参加して

旭川東光教会 松坂有民

伴走とは？

11/3、4と仙台の南光台教会にて行われた「伴走ひろば in 東北」にモニター参加者として参加してきました。連合に繋がるみなさんにぜひ、わたしの言葉での証しをできたらと思います。

まず最初の礼拝で、「伴走」についてのメッセージがありました。(ルカによる福音書4の1～13)誰もが皆、誰かと共に生き、伴走され、自らも伴走者となっているはず。わたし達が最も見習うべき「伴走者」はイエスさまです。そのイエスさまもまた、人と共に生き、1人で神さまに祈り、ご自分と向き合ってこられました。信仰、生き方、価値観、ことば、自分を確信し続けなければ、伴走してゆくことはできません。「他者」だけでなく、「自分」と向き合うプログラムでした。



わたしは、両親が牧師である家庭に生まれました。神さまや教会が、生活の中に当たり前存在する環境で育ってきま

した。この事について、嫌だと思ったり、不満に思ったことは一度もありません。まるで、あたたかい空気のようなものでした。でも、高校生くらいの時から、「神さまってなんだろう」「わたしは一体なにを信じているのだろうか」と、今まで一度も感じなかった疑問を感じる事が多くなり、礼拝中にメモを取ることも増えました。

ある時、聖書の言葉の意味を理解するハッとするという体験をしました。これまでとはまるで違う感覚に、感動したことを覚えています。その体験のあとからは、メッセージを喜び、感謝することができています。当たり前にあったものが、大きな恵みであることに気づかされたのです。

派遣礼拝で語られたメッセージも、胸に残っています。「自分の内にある言葉を語っていますか？」というストレートな問いかけでした。言葉は、「自分」が確立されていなければ出てこないものだと思います。実感しています。神さまは、わたしを作り続けて下さっていると思います。「内側にある言葉」は、簡単に出てくるものではないと感じます。心を開き、安心していなければ、紡げないものです。勇気も必要です。言葉は、磨くことができます。わたしから出される言葉を、磨きたいと思います。それは、自分自身を知り、認め、磨くことだと思うのです。「伴走」され続けているわたしは、「伴走」してゆく喜びを感じながら、となりにいる誰かと共に、これからも歩んでいきたいと祈ります。

●「お祈りください」

苫小牧教会 田代 仁

新年の祝福をお慶び申し上げます。

私たち苫小牧教会は、2015年度の計画総会で「2018年のクリスマスは新会堂で！」という目標を掲げ、今まさに佳境に入っています。この新会堂建築について具体的に目標を掲げて総会で決議したのは2015年度でしたが、実は新会堂建築を目標の一つとして考え始めたのは2008年頃にまで遡ります。その頃に、DREAMS COME TRUEの「未来予想図」ではありませんが、「未来年表」なるものをKJ法を用いて作成したのが始まりになります。大きなことから小さなことまで、「こうなったらいいな」「こういう教会を目指したいな」と思うことを、一つの未来に向かう年表にまとめたものです。

その中で大きな目標として掲げたのが、まず伝道開始35周年にあたる2011年に教会組織を目指すこと、その後40周年にあたる2016年に新会堂建築、また

は伝道所開設をしよう、というものでした。他にもいろいろな目標を掲げましたが、その中で実現したものもあれば、まだ種が眠ったままのものもあります。そして力不足なこともありながら、多くの方たちの協力を得て2012年度末に教会組織を実現しました。これは、まさに「神さまの時」であったのだと確信させられる出来事であったと思います。

そして今、新会堂建築を目指しています。これは客観的に言って私たちのような小さな教会には無謀な事だと言えるでしょう。ですがその無謀を承知で、しかし今しかないという思いで、私たちの歩みのそのもう少し先に神さまの恵みがあるという思いで、新会堂建築を目指しています。

どうぞ、この小さな群れの無謀な歩みが、しかし神さまのご計画の実現となりますように、福音宣教にふさわしい器が与えられますように、どうぞ共に祈りに覚えてくださいますよう、なにとぞよろしくお願いいたします。

●女性信徒の会道東ブロック集会報告 山中かおり（帯広教会）

《ブロック集会統一テーマ》

～あなたの教会のアウトリーチ～

今あなたの教会ではどのような方に伝道していますか？またあなたの教会では、特にどのような方々のケアをしようとしていますか？

《主題聖句》（マタイ9章35～36節）

イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病氣、あらゆるわずらいをおいやしになった。また群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれた。

10月28日、当帯広教会において、表記集会が行われた。北海道は道南、道央、道東の3ブロックに分かれ、2年に一度ブロック集会が開催されているが、今年の道東ブロックは帯広教会が当番で、早くから準備が進められてきた。従来は当番教会がテーマを決めてプログラムを作ってきたが、今年度は、3ブロック共通のテーマが設定されていたため、打ち合わせ等も少ない回数で済み、当番教会にとっても

負担が少なく感謝だった。当日は、旭川教会、旭川東光教会、釧路教会、帯広教会及び函館から本多連合女性会長合わせて、大人23名、子ども7名。開会礼拝では、集会牧師またアドバイザーとして川内裕子牧師から主題聖句にもとづいたメッセージが語られ、分かち合いでは各教会からの活動の取り組みなどが報告された。昼食の後、午後からは午前の報告に基づいたディスカッションが行われた。諸事情のため教会に行けない方々が居れば教会がその方々の所に行って出張礼拝を行っている教会の報告に感心し、私たちが先にキリストに出逢えた喜びの香りを放ちながら、求めている方々に寄り添い祈り合う大切さを学ばせて頂いた。何よりも道東の女性会の方々とのお交わりの時を持たせて頂いた主に感謝したい。



●教役者から教会へ

～教役者会の活動報告～

教役者会書記 杉山 望（札幌教会）

教役者会では8月29日から31日にかけて「牧師セミナー」を開催しました。今年は『今日の北海道における伝道について』というテーマのもと、講師の澤田二穂先生（元帯広教会協力牧師）が、「福音を福音らしく語る共同体」を形成するための宣教のあり方について、実践神学的な視点からお話ししてくださいました。2日目には澤田先生と帯広教会の宣教・牧会活動の体験から、信徒のミニストリーの課題と実践を具体的に紹介していただきました。また、田森茂基牧師に

は、『「開拓」という言葉から見える、「今」の私たちの課題』と題して発題していただき、「北海道」の歴史を振り返りながら、連合の宣教を省みる時をもちました。

例年、無牧師教会支援として行っている「教会支援プログラム」では、10月から12月にかけて5名の教役者を説教者としてリビングホープ教会に派遣しました。無牧師支援だけでなく、連合内の教会間での交流も兼ねて行ってきたこのプログラムをどのように活用・実施していくか、教役者会で協議されています。

年明けの1月3日から5日には、恒例の「教役者家族退修会」を定山溪で行いました。今年は13家族38名が参加し、休息と交わりのひと時を与えられました。



北海道連合では教会間の物理的な距離は離れていますが、教役者が集う場が大切にもたれていることで、繋がりが強められています。そこで与えられた恵みが教役者だけでなく、諸教会にも広がっていくことを願いつつ、これからも活動していきたいと思っております。